

部会資料2 他の専門部会からの提案

No.	提案元部会	提案の概要	提案の趣旨
1	産業・雇用部会	自然豊かな秋田で生活しながら首都圏等の会社に勤務するリモートワーク移住を首都圏等の企業にPRしていくべき。	・コロナ禍を契機として、地方回帰志向が高まるとともに、リモートワークなどの新しい働き方を認める企業が増えてきている。 ・このため、首都圏等の企業を離職せず、自然豊かな秋田で暮らしながら働くという選択が可能な状況になってきている。 ・このことを積極的にPRし、本県の課題である人口減少や若い世代の流出などの解決の1手段としてはどうか。
2	産業・雇用部会	介護世代をターゲットにしてリモートワーク移住を進めるなど、首都圏等の会社を離職せずに、県内に戻って、働きながら介護等できる選択肢をPRしていくべき。	・ある程度の年代になると親の介護の問題に直面する人が多くなるという現状がある。 ・その際に、今勤めている(首都圏等の)会社を離職せずに、介護することができるとい選択肢があることを積極的にPRすることで救われる人も多いのではないかな。 ・そのような選択肢を示していくことで、県内に戻ってくる人が増え、人口減少問題の一助になるのではないかな。
3	産業・雇用部会	SDGsや女性活躍に取り組む企業同士(他県も含む)の交流会(異業種を含む)などを実施することで、SDGsや女性活躍の取組もより進化(深化)するのではないかな。	・1つの会社の中でSDGsや女性活躍の取組を進めても限界がある。 ・他社のSDGsや女性活躍の取組を知る機会を作ること、自社での取組に足りない部分や新たなアイデアが生まれ、自社の活動が活発化するのではないかな。

部会資料2 他の専門部会からの提案

No.	提案元部会	提案の概要	提案の趣旨
4	産業・雇用部会	首都圏の若者を県内に呼び込むため、金・土・日に夜行バスを無料で走らせてはどうか。 また、秋田の大学生も利用可能することで、首都圏とのネットワーク構築支援になり、首都圏等から人を呼び込むことにもつながるのではないかな。	・本県の最重要課題である人口減少、若者の流出について、本県の一番のネックは、交通費(首都圏との距離)である。 ・特に若い世代はお金がないことから、秋田に帰ってくることを敬遠する傾向があるのではないかな。 ・無料バスを走らせ、首都圏との距離感を縮めることで、県内回帰のハードルが下がるのではないかな。 ・また、県外在住者が本県を訪れるきっかけとして「人の繋がり」が非常に大きいことから、県内学生等にも無料バスを活用してもらうことでネットワーク構築を支援し、本県を訪れる人の数を増やしていくべきではないかな。
5	産業・雇用部会	若者の県内回帰のためには、暮らしやすさなどの生活環境(通勤時間が短い、子育て環境の充実等)も積極的に県内就職のメリットとしてPRしていくべき。	・若者の県内回帰を進めるに当たっては、雇用環境(業務内容、賃金水準、職場環境など)だけでなく、生活環境も重要な要素である。 ・通勤時間が首都圏に比べ短いことや、子育て環境が充実していることなど、仕事側のアプローチだけでなく、暮らしやすさの面も積極的にPRしていくべきではないかな。
6	農林水産部会	食料の円滑な入手(食品アクセス)の確保について、特に自動車利用が困難な高齢者を中心に、食品を簡単に購入できない、いわゆる買い物困難者の増加が見込まれることから、県としてそのような事態を見据えた対策を講じるべきではないかな。	・県の人口減少が進む中、経営を維持することができず、廃業する地域のコンビニや商店などの増加が見込まれる。 ・こうした中、改正食料・農業・農村基本法においても、食料の円滑な入手(食品アクセス)の確保について、規定(第19条)された。